

だより

東名古屋病院

第95号

2024年4月発行

理念

私たちは、医の倫理を守り、患者さんの気持ちを尊重し、より質の高い医療を提供します。

基本方針

- ① 患者さんへの医療内容の説明と患者さんの同意を医療の基本とします。
- ② 地域に密着し、心の触れ合いを大切にした医療を提供します。
- ③ 常に自己研鑽に励み、医療人としての専門的知識・技術の習得に努め、皆様に信頼される安全で最新の医療を提供します。
- ④ 健全な経営を維持して療養環境の整備に努め、安心して快適に療養できる病院を目指します。



表紙の花「ミモザ」

CONTENTS

巻頭言／医療資源の有効活用法

情報提供／廃用評価や訓練のご紹介

ヘルスケアアートの世界へようこそ ～アートにっこりセンター～

地域医療連携室だより／支援者向けコミュニケーションツール勉強会について

トピックス／令和5年度名東区多職種連携研修会について

Sony PlayStation® VR 一式を梶原寿逸様よりご寄贈いただきました



ヘルスケアアートの世界へようこそ



支援者向け
コミュニケーションツール
勉強会について



独立行政法人 国立病院機構
東名古屋病院
NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION
HIGASHI NAGOYA NATIONAL HOSPITAL

〒465-8620

名古屋市名東区梅森坂5-101

TEL 052-801-1151 FAX 052-801-1160

ホームページ <https://higashinagoya.hosp.go.jp/>





医療資源の有効活用法

内科系診療部長 山田 憲隆

2024年の元日に、石川県能登地方で令和6年能登半島地震が発生しました。被災された皆様にお見舞い申し上げます。2024年は働き方改革が進み、労働時間の規制が強化されることで、医療、介護、福祉の分野でも人手不足が深刻な社会問題となっています。特に医療従事者が不足しており、高齢化社会では適切な医療サービスを提供するためには対策が必要です。

昨年、国連の事務総長は気候変動の脅威について「地球温暖化の時代が終わり、地球が沸騰する時代がきた」と警告しました。異常気象が増加することで、健康状態が悪化し、新たな感染症が発生しやすくなる可能性があります。また、2025年には団塊の世代が全て75歳以上の後期高齢者になり、感染症や高齢化、人口減少などの問題に同時に対処する必要が出てきます。この課題に対処するためには、医療や介護の充実と適切な人材確保が重要です。

最近、外来患者さんから家族の介護に関する相談が増えています。通院中の患者さんが、寝たきりの家族を介護されているケースも多く見受けられます。また、元気な方が突然病気を発症し、入院が必要になって退院後にどうしたらよいか分からないと困っている方も増えています。

2000年4月に始まった介護保険制度は、高齢化社会の到来に伴い増大する介護負担に対応するために導入されました。この制度は、高齢者や障害者などの介護を必要とする人々に対して、適切な介護サービスを提供することを目的としています。介護サービスの必要性や家族の認知症などに関する悩みがあれば、地域包括支援センターに相談してください。要介護の認定を受けるには、調査員が自宅を訪問し、主治医の意見書が必要です。65歳以上の人は要介護または要支援の状態であれば受給できますが、40～64歳は特定の疾患により要介護（要支援）の状態になった場合に限られます。認定を受けると、介護保険制度サービスを利用できるようになります。在宅診療、通所介護サービス、介護予防サービス、訪問看護などを組み合わせ、適切な医療やケアを受けることができます。介護保険制度の利用は、家族や患者さんの生活を支える重要な手段です。適切なサービスを受けることで、介護離職を防ぎ、家族の健康と働き方の両立を支援します。介護保険制度は、社会全体で高齢者や介護が必要な人々を支えるための重要な仕組みです。

当院では、入院中の患者さんの退院支援を提供するため、医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカー、栄養士などのチームが協力しています。また、介護保険の申請が行われていない患者さんには、主治医意見書を作成し、自宅での療養や施設への入所、退院後の調整などの準備を進めます。悩んでいることがあれば、どうぞお気軽に担当者に相談してください。患者さんやその家族が安心して治療を受け、適切なケアプランを立てるためには、包括的なアプローチと医療資源の効果的な活用がますます重要です。



廃用評価や訓練のご紹介

リハビリテーション科PT呼吸班

薬剤調整入院などによる起居動作・歩行能力の低下に加えて、ここ数年ではCOVID-19発症に対する個室隔離による活動性低下など、いわゆる廃用症候群に対しての機能訓練を医師に依頼されることがあります。

そこで必要となるのが検査や評価ですが、簡単に実施できてその場で数値を示せる器具やテスト、そして訓練に使う運動強度をいくつかご紹介します。



● 握力計 (筋力)

全身の総合的な筋力を反映します。左右最高値の平均値を性別年代別平均値と比較します。



● ハンドヘルドダイナモメーター (筋力)

膝関節伸張筋力体重比 (測定値 kgf / 体重 kg) などを計測して性別年代別標準値や歩行自立に必要なとされる値との比較ができます。



● 自転車エルゴメーター (持久力)

重さのあるペダルこぎ運動をして脈拍や息切れの変化を調べます。肥満や膝痛など整形外科的疾患のある人でも安全に、転倒の危険性が少なく行えます。



以下は器具を使わない評価です。

● 徒手筋力検査 (筋力)

重力や徒手で加えた力に抵抗して、関節を動かせるかをみます。

● 6分間歩行試験 (持久力)

6分間で平地を歩ける距離、息切れや脈拍、足の疲れから肺や心臓の状態が日常生活の労作にどの程度障害を及ぼしているのか調べます。

● ベルグバランススケール (バランス)

14項目の動作を行い、遂行状況を0点から4点で加算し、その合計点数を算出します。

これらの筋力、持久力、バランス検査などを組み合わせて確認して、どの程度の強さの運動をどの程度の時間・頻度で行うかを設定します。例えば持久力訓練の強度としてはHRmax法 (年齢別の最大心拍数に対する割合で目標心拍数を決める) やHRR法 (年齢別最大心拍数から安静時心拍数を引いた値に定数をかけて目標心拍数を決める。廃用では55%程度の強度が多い)、修正ボルグ指数 (安静時～運動時の息切れの自覚度合いを数値化したもの) を使います。筋力訓練であれば、翌日に疲れが残らない程度の重さと回数を調整していきます。

評価と訓練は表裏一体ともいわれ、評価結果は訓練へ反映され、訓練成果は病棟内の生活に汎化され、その様子の評価が退院調整へつながります。私たちは、患者さんに自信と安心をもって退院していただきたいと思ひます。



ヘルスケアアートの世界へようこそ ～アートにっこりセンター～

皆さまは結核と聞いてどのようなイメージをもちますか?「不治の病」、「恐ろしい感染症」あるいは「一昔前の病気」でしょうか?今はほとんどの場合「薬で治る病気」になり、更に早期発見・隔離、服薬支援、接触者の健診などの総合的な結核対策が効果を上げ、患者数は激減しました。しかし、結核は感染対策上、入院治療を必要とする病気です。入院期間は1～3か月でその期間は原則、外出・外泊はできず、隔離された病棟内での生活になります。患者さんは高齢な方が多く、そのような環境から、容易に認知機能や身体機能が低下しやすい状況になります。ある時、一人の看護師から患者さんと共に行える活動「ヘルスケアアート」に取り組みたい!と提案があり、それをきっかけにこの活動が始まりました。

ヘルスケアアートとは「健康で持続可能な社会と人々のウェルビーイングを目指し、アートを活用して医療福祉施設などの環境ストレスを軽減し、人々の絆と生きる力を引き出す取り組み」です。ホスピタルアート、Arts for Healthなどと呼ばれることもあります。ヘルスケアアートには様々な種類・方法がありますが、資金面も考慮し、病棟ではペットボトルのキャップを使い、アートパネルを患者さんと職員で作成することにしました。作成に当たり、まずはペットボトルキャップの回収です。患者さんや看護師だけでなく、薬剤師やリハビリスタッフ、清掃員の方まで協力して頂き1万個以上を集めました。開催は1か月に1～2回程度、約1時間でスタッフ人数を確保できる日に開催しました。患者さんへは声掛けや掲示で参加を募り、多くの方に参加して頂き、患者さま同士のコミュニケーションにも繋がりました。

そして約6か月をかけ、横2.3m、縦1.7m、ペットボトルキャップ3,072個を使った迫力ある作品が完成しました。また、このペットボトルキャップは約6kgで30円(約4人分の結核/BCGワクチン)となり、余剰分は今後、寄付を行う予定です。

横2.3m×縦1.7m

ペットボトルキャップ
3,072個

ペットボトルキャップ
約6kg⇒30円

約4人分の
結核/BCGワクチン
寄付になる



地域医療連携室だより

支援者向けコミュニケーションツール勉強会について

地域医療連携室 医療相談係長 増田 美穂子

当院を利用される患者さんの中には、病気によって発声が難しくなったり、手の障害により筆談ができなくなったりして、周りの方とのコミュニケーションにお困りになる方もいらっしゃいます。また、コロナ禍以降、スマートフォンやパソコンを使用してご家族やご友人と連絡をとってられる患者さんが増えましたが、病気の症状や障害によって、機器の操作が難しくなり、ご不便に感じておられる方もいらっしゃいます。そのようなお困りごとに対して、いろいろなツール（道具）を利用することで、周りの方とのコミュニケーションがスムーズになったり、機器の操作が可能となることがあります。

当院では主に神経筋疾患などによりお身体が不自由となり、意思疎通が困難となった患者さんや、コミュニケーションの手段にお困りの患者さんへ、コミュニケーションツールの導入やご紹介をさせていただくことがあります。

今回、初の試みとして、当院でのコミュニケーションツールの導入実績や経験を、地域で神経筋疾患などの患者さんを支援されている専門職の方々へご紹介し、新しい機器やアプリケーションについて一緒に勉強したい、と考え「東名古屋病院（支援者向け）コミュニケーションツール勉強会」を以下の通り企画、開催しました。



第1回〈2024年2月6日(火)〉

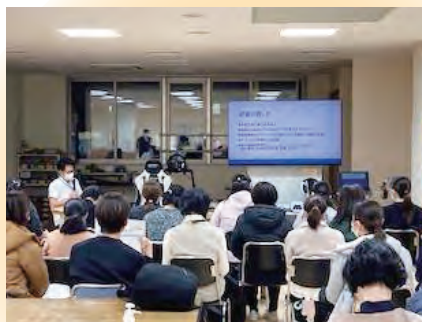
「意思伝達装置とは」第二脳神経内科医長 橋本 里奈 「意思伝達装置の制度とお金の話」MSW 増田 美穂子

第2回〈2024年2月13日(火)〉

「ローテク・機器等の紹介と実践」言語聴覚士 坪井 丈治・中野 杏里

第3回〈2024年2月27日(火)〉

「ハイテク機器の活用と当院における機器導入までの流れ」作業療法士 成瀬 智将・真川 泰徳



第1回は当院への参集とzoom配信でのハイブリッド研修とし、第2回、第3回は当院リハビリテーション室での現地開催としました。全3回の連続講座で、のべ122名の支援者の方々にご参加いただきました。研修会後のアンケートでは、「実際に機器に触れることができ、大変勉強になった」、「継続的に開催してほしい」、「実際の導入事例も教えてほしい」等、大変ご好評を頂いたところです。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

当院ではコミュニケーションツールについての知識を広め、地域の支援者の方へお伝えすることで、地域の神経筋疾患などの患者さんをはじめ、コミュニケーションに困難がある患者さんへの支援の輪が広がることを目指しております。

令和5年度名東区多職種連携研修会について

医療社会事業専門職 増田 美穂子

去る2024年2月8日(木)、名東区役所講堂にて、「名東区多職種連携研修会」を開催しました。平日の夕方からの開催でしたが、60名を超える方にご参加いただきました。「多職種で学ぶ認知症ケア」をテーマに、名東区内で医療・介護に携わっている医師や歯科医師、薬剤師、看護師、ケアマネジャー、介護福祉士、行政職員等、所属も異なるさまざまな職種が集まり学び合いました。

はじめに、当院の奥田聡院長より、開会のご挨拶をさせていただいたのち、脳神経内科の村尾厚徳医師より「認知症を疑ったときに医療者が確認すべきこと」と題して、認知症の定義から診察・診断のポイント、受診のタイミングなど、認知症の基礎的な知識から、最近承認されたアルツハイマー型認知症の新薬のお話まで、幅広くご講演されました。次に当院の認知症認定看護師の池田友子看護師から「認知症ケアと家族支援」の講演を行いました。認知症の方を介護する家族への支援も大変重要であり、専門職が地域で連携して家族ケアを行っていく大切さをお話しされました。

そして、名東区北部いきいき支援センター認知症地域支援推進員の上田善美様と、名東区南部いきいき支援センター認知症地域支援推進員の大林優子様から「名古屋市の認知症施策について」の講題にてお話し頂きました。地域での認知症の方々への様々な取り組みを紹介していただき、知らなかったことも多く大変勉強になりました。



開会挨拶 奥田院長

村尾脳神経内科医師



池田認知症認定看護師

上田認知症地域支援推進員
大林認知症地域支援推進員



講演後は、グループディスカッションの時間を設け、5～6人の多職種で構成したグループで、認知症の方とその家族への支援について、熱いディスカッションが繰り広げられました。研修会後のアンケートでも、このグループディスカッションについて、非常に有意義だった、とのご感想を多く頂戴しています。

最後に名東区医師会長の牧篤彦先生より閉会のご挨拶を頂きました。ユーモアを交えてお話しくださり、参加者皆さまが笑顔になり和やかな雰囲気の中、閉会となりました。



閉会挨拶 牧名東区医師会会長

当日ご参加いただきました皆さまに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後も地域医療に貢献し医療・介護の連携をはかることで、地域住民のみなさまのお役に立てる病院でありたいと考えています。引き続きご支援・ご指導賜りますようお願い申し上げます。



グループディスカッション

Sony PlayStation® VR 一式を 梶原 寿逸様よりご寄贈いただきました

当院の患者様、梶原寿逸様より、「患者さんへのリハビリテーションに活用してほしい」とSony PlayStation® VR一式をご寄贈いただきました。リハビリテーション室にてお披露目会を行い、当院奥田聡院長より感謝状が贈呈されました。最先端の仮想空間を職員も体験し、そのリアルさに感動しました。既に一部の患者さんにご利用いただいておりますが、今後も高次脳機能障害への訓練や、ドライブシュミレーターとしての利用、リハビリテーションのモチベーション向上など、様々な活用を検討しています。

梶原様、ご寄贈ありがとうございました。



外来案内

診療受付時間／午前8時30分～午前11時まで(緊急の場合はこの限りではありません)

診療開始時間／午前9時～

休 診 日／土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始(12月29日～1月3日)

初診時の特別料金／他の医療機関等からの紹介ではなく、直接当院に来院された患者さまは、初診にかかる費用として、2,200円(税込)をいただいております。ご了承ください。
ただし、緊急その他やむを得ない事情により他の医療機関からの紹介によらず来院された場合にあってはこの限りではありません。

外来診察担当医表(令和6年4月1日現在)

再来診は全科予約制となります。

診療科	月	火	水	木	金
呼吸器内科	初診 角田 陽平	角田 陽平	林 悠太	中川 拓	山田 憲隆
	垂水 修		角田 陽平		林 悠太
	中川 拓	山田 憲隆	中川 拓／小川 賢二 (第1・3週) (第2・4・5週)	小川 賢二	
循環器内科	廣瀬 未来		杉山 智美		
健康診断					武藤亜紀子
脳神経内科	初診 片山 泰司 (第1・3・5週) 村尾 厚徳 (第2・4週)	奥田 聡 (第1・3・5週) 佐藤 実咲 (第2・4週)	橋本 里奈	横川 ゆき	小森 祥太 (第1・3・5週) 栗田 泰斗 (第2・4週)
	饗場 郁子	片山 泰司	栗田 泰斗	小森 祥太	村尾 厚徳
	横川 ゆき		佐藤 実咲	橋本 里奈	
消化器内科	横井 美咲	高橋 宏尚	高橋 宏尚／小林 慶子 (交替制)	小林 慶子	高橋 宏尚／小林 慶子 (交替制)
呼吸器外科		山田 勝雄			
外科・消化器外科	渡邊 正範 (9:00～10:30)			永田 博	渡邊 正範
乳腺外科		遠藤登喜子			遠藤登喜子／森田 孝子
乳腺・内分泌外科				今井 常夫	
整形外科	上見 亮太	堀江裕美子	小杉山裕巨	上見 亮太	堀江裕美子
リウマチ科			小杉山裕巨		
脳神経外科					竹内 裕喜
泌尿器科	岡村 菊夫		青田 泰博		岡村 菊夫 (午前 通常診療・午後 女性外来※2)
精神科					亀位 翼
膠原病内科	鈴木 道太 (9:30～)				
内分泌内科					深見亜也子
小児科(予約制)	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子
皮膚科	加藤 愛	加藤 愛	加藤 愛		加藤 愛
耳鼻いんこう科※1		伊藤 陽子	伊藤 陽子	伊藤 陽子	

※1:補聴器外来(予約制)／第1・3火曜、木曜 14:00～15:30

※2:女性泌尿器科外来／金曜(受付)12:00～13:30(診察)13:30～15:30

●時間外・休日の救急診療については、お電話にてご相談ください。(052-801-1151)

●セカンドオピニオン外来(予約制)を行っていますのでご利用ください。

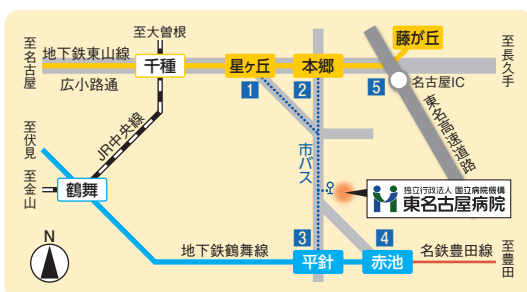
●火・(水)・木曜午後に一般健診を行っています。(健診受付は14:00～15:00です。)

東名古屋病院

病院紹介動画▶



病院へのアクセス



1 地下鉄東山線 星ヶ丘駅からお越しの場合

- ・市バス③番のりば 東名古屋病院行きまたは梅森荘行き約15～25分…東名古屋病院にて下車
- ・星ヶ丘よりタクシーにて約15分

2 地下鉄東山線 本郷駅からお越しの場合

- ・市バス①番のりば 地下鉄平針駅行き20～30分…東名古屋病院にて下車

3 地下鉄鶴舞線 平針駅からお越しの場合

- ・市バス①番のりば 本郷行き約10分…東名古屋病院にて下車
- ・タクシーにて約8分

4 名鉄豊田線・地下鉄鶴舞線 赤池駅からお越しの場合

- ・タクシーにて約8分

5 東名高速道路 名古屋ICより車で約20分